様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１１４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２６２７

研究課題名（和文）在日外国人情報弱者のための母語による子女の学校教育関連情報提供システムの構築

研究課題名（英文）Development of a web-based system to provide school education information to foreign residents in their native language in Japan

研究代表者

佐々木　良造（SASAKI, Ryozo）

秋田大学・国際交流センター・助教

研究者番号：５０６０９９５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題の成果として、インターネット上に「在日インドネシア人のための高校進学情報」（https://gotohighblog.wordpress.com/）というウェブページを開設した。進学情報のニーズ調査を進めるうちに、高校進学だけでなく、義務教育や高校卒業後の進学に関する情報へのニーズがあることがわかった。特に、高校卒業後の進学は、選択肢が多岐に渡ること、入学試験の方法が複数あること、進学希望者自身の目標・目的が明確になってくることなどの理由から、キャリア、ライフコースを視野に入れた情報を求めていることがわかった。
なお、本研究課題は19H01272に発展的に統合された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
私たちは在日外国人情報弱者の声に耳を傾け、適切な情報を提供することが彼らの日本でのキャリア形成につながると考えた。この考えは社会言語学者の徳川宗賢が提唱した「福祉言語学」に通底している。本研究課題の学術的意義として「福祉言語学」の理念に実態を与える実践研究のひとつとなったと考える。本研究の社会的意義は、外国にルーツを持つ子どもたちの自己実現をサポートするためには、子どもたちへの日本語指導だけでなく、キャリア形成のための情報を広く提供すること、さらに子どもたちだけでなく保護者にも情報を提供し、子どもと保護者との間の情報格差をなくすことが必要であることを指摘した点にあると考える。

研究成果の概要（英文）：We developed a web-based system to provide school education information to foreign students and their parents in their native language in Japan, a country considered lacking in conveying information effectively to non-natives. A web page titled "Information for Indonesian residents in Japan to go to high school” (http://www.gotohighblog.wordpress.com/) was created. Interviews with high school graduates revealed the need for information on other educational areas including compulsory education and higher education such as university or college. Students have to appear for multiple entrance examinations for admission to a university in Japan. Providing specific information to students as per their individual needs is a challenge. To fulfill such requirements for educational information, we have started a new research project, JSPS 19H01272.

研究分野：日本語教育学

キーワード：福祉言語学　言語的弱者　高校進学情報支援　在日インドネシア人コミュニティ　進学情報提供バイリンガルウェブサイト　ライフコース　就職・キャリア形成

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１，Ｚ－１９，ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本で学歴を形成し，キャリアを形成しようとする在日外国人保護者とその子どもたちは，学校教育に必要な情報から取り残されている情報弱者である。大洗町のインドネシア人コミュニティも，学歴アスピレーションの高さ，言葉の壁による日本の教育制度・受験制度の理解の難しさ，中学卒業時の試験で高校進学が決まるインドネシアの進学制度と日本の高校進学制度の違い，保護者が日本語で情報を得ることができず子どもの進路選択に関われない，といった在日外国人情報弱者が直面する「高校進学の壁」問題の渦中にあった。

２．研究の目的

「１．研究開始当初の背景」で述べた状況を改善し，在日外国人情報弱者にとっての「高校進学の壁」を取り除くべく，進学情報に関するニーズを集約し，茨城県の高校進学に関する情報を彼らの母語であるインドネシア語と日本語で作成する。そして，在日外国人コミュニティは集住型から散在型へと変わりつつある。人が散在すると情報は集まりにくい。こうした状況で情報を提供するために，進学情報を提供するウェブサイトをインターネット上に構築する。

３．研究の方法

茨城県大洗町の日系インドネシア人コミュニティにおける高校進学の事例を収集し，進学を希望する保護者と生徒にどんな情報が必要かニーズ調査を行った。そして，茨城県内の高校に進学した外国籍生徒の事例を収集した。同時に，高校進学に関する基本的な情報を収集し，インドネシア語に翻訳する作業を行った。他方，情報提供システムを構築した。

４．研究成果

本研究課題の成果は，インターネット上のウェブサイトに「在日インドネシア人のための高校進学情報」（https://gotohighblog.wordpress.com/）というウェブページを開設したことである。このウェブサイトは本研究課題終了後も継続してコンテンツの充実を図る。

以下，時系列にそって研究の成果を述べる。

2015 年度は，同年度 9 月末まで研究代表者が育児休暇を取得していたため，実質的なスタートは 2015 年度後半であった。2015 年 11 月に研究代表者・研究分担者が集まり，本科研について，調査・作業の進め方，本科研の到達目標，研究成果の発表について議論した。

調査･作業の進め方は，(a)茨城県東茨城郡大洗町の日系インドネシア人コミュニティ（以下，大洗コミュニティ）において，必要とされる学校教育についての情報，特に高校進学に関する情報のニーズを収集する。(b)ニーズ調査に基づき，高校進学に関する情報を収集し，日本語版を作成する。(c)日本語版をインドネシア語に翻訳する。(d)高校進学に関する情報の日本語版，インドネシア語版を大洗コミュニティの関係者に見てもらい，フィードバックを得る。(e)フィードバックに基づき，内容を修正する。という手順とした。

2016 年 7 月にフィールドである茨城県東茨城郡大洗町において，高校受験を控えた中学生の在日インドネシア人の子女および高校に入学した子女計 5 名にインタビューを行った。また，大洗町内の中学校の進路指導担当者と面談を行い，中学校での進路指導について，および在日インドネシア人子女を担当したことがある教員にインタビューを行った。インタビューから得られた知見は，インドネシアで行われた 2016 年日本語教育国際研究大会において「言語的弱者の在日外国人家庭に対する高校進学情報支援の試み」と題し，以下の内容を発表した。

「本研究では，日系インドネシア人の子女には日本語で，その保護者にはインドネシア語で日本での高校進学情報を提供するため，具体的にどのような情報が求められているか，高校受験を経験した日系インドネシア人子女を対象にインタビューを行った。その結果，子女からは，高校の学科選択と卒業後の進路に関する情報と保護者に説明するための日本の受験制度のインドネシア語での説明についてのニーズがあることがわかった。」

上記の結果に基づき，日本の高校受験制度理解に必要な項目を 41 選定し，高校受験を控えた中学 2,3 年生の日系インドネシア人子女向けに日本語で 41 項目の説明に着手した。

平成 29 年度は上記の 41 項目の日本語解説文とそのインドネシア語訳を作成し，インドネシア人子女とその保護者に情報を提供する。子女および保護者のフィードバックを踏まえて内容を修正し，進学情報提供システムの構築に着守した。

2018 年度の研究の成果は，(1)インドネシア人保護者にインドネシア語で，その子どもにやさしい日本語で高校進学情報を提供するバイリンガル Web サイトの試作版を構築したこと，(2)試作版 Web サイトについて，茨城県東茨城郡大洗町在住のインドネシア人の保護者とその子ども 3 組に提示し，フィードバックを得たこと，(3) (1),(2)の過程をまとめ，「子どもの日本語教育研究会第２回研究会」（査読あり，ポスター発表）で発表したこと，の 3 点があげられる。特に，(3) のポスター発表においては，高校進学を控えた中学生のインドネシア人家庭だけでなく，小学校の教員や児童にも役立つであろうというコメントが得られた。

この年度の研究成果の意義・重要性は，茨城県東茨城郡大洗町在住のインドネシア人コミュニティにおける高校進学情報のニーズに対応する Web サイトを構築したことである。これまで，高校に進学するための情報は，子どもの通訳を通して得た情報（通訳する子ども自身も十分理解していない可能性がある）や，コミュニティ内の「クチコミ」といった，インフォーマルな情報，あるいは，信憑性に疑問が持たれる情報が主であったが，書かれたテキストとして，イ

ンドネシア語・日本語の両言語で情報が提供された点に意義がある。また，インドネシア語が優位言語である保護者と日本語が優位言語である子どもとで進学情報を共有することによって，進路選択に保護者が関与できる。進路に関して保護者に相談し，助言を得ることを願っている子どもにとって，バイリンガルの進学情報提供 Web サイトの存在は重要だろう。
　最終年度には，上記ウェブサイトのコンテンツの充実を図るため，進学経験者の体験談を掲載する準備を始めた。進学経験者にインタビューを進めていくなかで，高校進学に関する情報へのニーズだけでなく，義務教育や高校卒業後の進学に関する情報へのニーズがあることがわかった。特に，高校卒業後の進学は，選択肢が多岐に渡ること，入学試験の方法が複数あること，進学希望者自身の目標・目的が明確になってくることなどの理由から，単なる進学のサポートではなく，子どものキャリア，ライフコースを視野に入れた情報提供が求められる。
　今後は，本研究の出発点となった高校進学情報提供サイトのコンテンツを充実させていくとともに，子どものキャリア，ライフコースを視野に入れた情報提供を行っていきたい。

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計 1 件）
① 吹原豊，在日インドネシア人コミュニティにおける子どもたちの言語習得―対話型アセスメント，インタビュー，参与観察を用いた探索的調査報告―，国際社会研究，2019，23-32

〔学会発表〕（計 4 件）
① 佐々木良造・吹原豊・助川泰彦，日系インドネシア人コミュニティにおける高卒モデルの事例研究―茨城県東茨城郡大洗町における移住労働者とその子どもたちのために―，子どもの日本語研究会，2018 年 12 月 2 日，兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス
② 佐々木良造・助川泰彦・吹原豊，情報弱者に対する教育情報支援：子どもたちのライフステージによりそった教育情報提供の試み，ヴェネツィア 2018 年日本語教育国際研究大会（国際学会），2018 年 8 月 2 日～4 日，イタリア，ヴェネツィア，カ・フォスカリ大学
③ 佐々木良造・助川泰彦，在日インドネシア人生徒とその保護者のための高校進学情報提供バイリンガル Web サイトの構築，子どもの日本語教育研究会，2017 年 12 月 10 日，東北大学
④ 佐々木良造・吹原豊・助川泰彦・Ni Nengah Suartini・八重樫理人，言語的弱者の在日外国人家庭に対する高校進学情報支援の試み, 2016 年日本語教育国際研究大会 (国際学会), 2016 年 09 月 10 日，ヌサドゥア・コンベンションセンター,バリ,インドネシア

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
ホームページ
在日インドネシア人のための高校進学情報
https://gotohighblog.wordpress.com/

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：八重樫理人

ローマ字氏名：YAEGASHI Rihito

所属研究機関名：香川大学

部局名：創造工学部

職名：准教授

研究者番号（8 桁）：30410848

研究分担者氏名：吹原豊

ローマ字氏名：FUKIHARA Yutaka

所属研究機関名：福岡女子大学

部局名：国際文理学部

職名：教授
研究者番号（8 桁）：60434403

研究分担者氏名：助川泰彦

ローマ字氏名：SUKEGAWA Yasuhiko

所属研究機関名：東京国際大学

部局名：言語教育機構

職名：教授
研究者番号（8 桁）：70241560

(2)研究協力者
研究協力者氏名：ニ・ヌンガー・スアルティニ（インドネシア・ガネーシャ教育大学）
ローマ字氏名：Ni Nengah Suartini

※科研費による研究は，研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため，研究の実施や研究成果の公表等については，国の要請等に基づくものではなく，その研究成果に関する見解や責任は，研究者個人に帰属されます。